

【地域における就労創出に関する事業・活動】

・よいしごとステーション（2021年度）（期間：7月8日～9月30日）

～初任者研修～

よいしごとステーション

しごとづくりしごと探し相談交流会を反貧困ネットワークと開催4回実施。

その中で仕事・住まいをなくした方、難民申請中の外国人との出会いがあり、介護員初任者研修を実施した。就労に向けての介護初任者研修を3名が受講し、資格取得し1名が就労している。

また、日本語での学びが難しかったため、通訳、また教科書やレポートの翻訳も併せて行った。

食事がとれないということで、初任者研修の受講生仲間の中で8月からはフードドライブの取り組みが始まり、9月からはフードパントリーの活動へと発展し、いつでも相談や食のサポートができる環境がよいしごとステーションで生まれた。

また、外国人の方のビザの問題、言葉の問題、母国での困難、を皆で学びあう時間を取り、当事者と通訳さんも一緒に発言して皆で学びあう機会を持った。

そのなかで、日本語の継続的な学びが必要と感じ森監督や夜間中学校の先生方とも連携して語学の勉強の機会を今も継続している。残念ながら、日本語での意思疎通がまだ難しいため、就労には直接的にはつながらなかった外国人2名だが、お互いに学びあい、この受講生同士のつながりからケアの本質を学ぶことができた。また朝日新聞にも大きく取り上げていただき、協同労働への関心を持つ人が増え、朝日新聞も継続的に取材してくれている。

◆出会う場（しごとづくり・しごとさがし・相談交流会）

介護初任者研修：2名の外国人と6名の日本人8名でスタート。

学ぶ

介護初任者研修

- ①2名の外国人と共に学ぶ
- ②英語と日本語の通訳を交えて

外国人の様々な困難

- ①受講料等のサポートの申請
(財団法人協同労働くらしとしごとより助成をうけ受講)

食の応援が必要

- ②食事をとらない⇒食事をとれない現状
- ③受講生同士でフードドライブ
- ④フードパントリー誕生（朝日新聞に掲載）

国籍・性別・年齢を超えて

ケアの本質を学びあう仲間に

その中心には食があった